



国際標準論理文章能力検定

International Standard Competency
Test of Logical Thinking

Level 6-7

2014年度 第2回

問題用紙

検定開始の合図があるまで問題を開いてはいけません。
まず、下記の注意をよく読んでください。

●検定上の注意●

1. 検定時間は60分です。
2. 検定開始前に答案用紙に受検番号・氏名・生年月日を必ず記入してください。
3. 検定が始まって、印刷が見えにくかったり、ページがおかしかったりしたら、手をあげて監督者かんとくしゃに知らせてください。
4. 問題のあいているところは自由に利用してください。
5. 問題は、答案用紙と一緒いっしょに回収します。

受検番号

氏名

一般財団法人 基礎力財団

問題 I 次の問いに答えなさい。

第一問 —— 線部 (1) ・ (2) の主語となる言葉を抜き出さない。主語がない場合は「なし」と書くこと。

親ゆずりの無鉄砲で子どもの時から損ばかりしている。小学校にいる時分、学校の二階から飛び降りて一週間ほど腰をぬかした事がある。なぜそんなむやみをしたと聞く人があるかもしれぬ。べつだん深い理由でもない。新築の二階から首を出していたら、同級生の一人が冗談に、いくら威張っても、そこから飛び降りる事はできまい、弱虫やーい、とはやしたからである。

夏目漱石「坊ちゃん」

第二問 —— 線部 (1) ・ (2) の言葉はどの言葉にかかっているか、その言葉を抜き出さない。

それにしても僕の大好きなあのおい先生はどこに行かれたでしょう。もう二度とはあえないと知りながら、僕は今でもあの先生がいたらなあと思います。秋になるといつでも葡萄の房は紫色に色づいて美しく粉をふきますけれども、それを受けた大理石のような白い美しい手はどこにも見つかりません。

有島武郎「二房の葡萄」

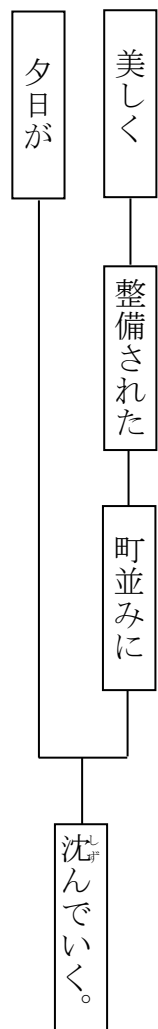
第三問 次の文の（ ）の中にひらがな一字ずつを入れて、それぞれ文章を完成させなさい。

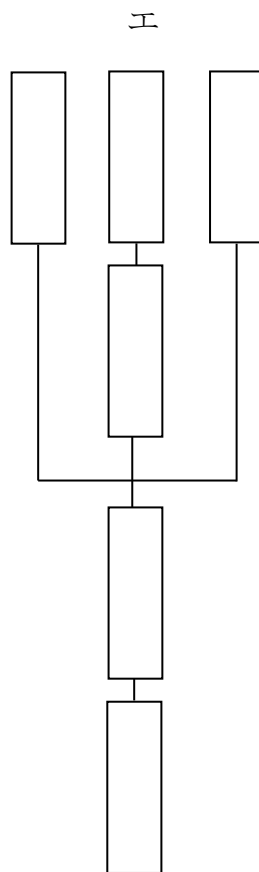
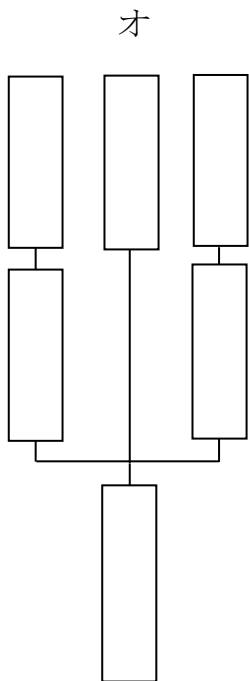
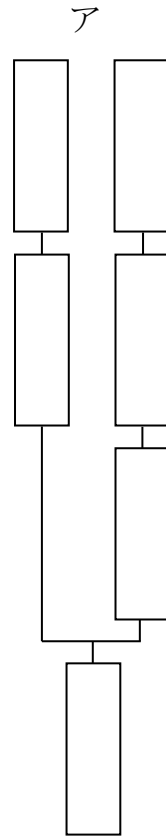
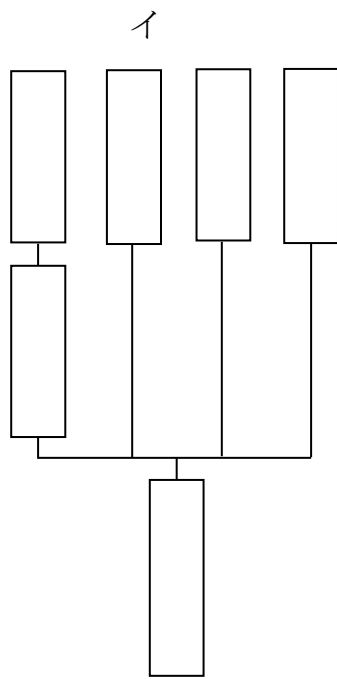
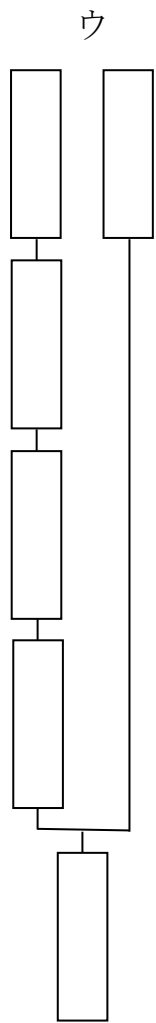
- (1) () () () () () 負けても、最後までがんばる。
- (2) 君 () () () () よければ、ぜひ来てほしい。
- (3) 父の体型は () () () () () ビールの樽たるのようだ。

第四問 次の文章は、後の構造図のどれに当たるか、例にならって、最もふさわしい図を、次のア～オの

中から、それぞれ一つずつ選びなさい。

【例】美しく 整備された 町並みに 夕日が 沈しずんでいく。





- (1) 私の兄の趣味は全国の温泉めぐりだ。
- (2) 私は先生の説明に心から納得した。
- (3) 日本人は場の空気を読むことが得意だ。

第五問

次の文の（ ）に入る適切な接続語を、後のア～キの中から選びなさい。

- (1) 日本の歌詞には雨という言葉が多い。（ ）、なみだあめ「涙雨」というように。
- (2) 今日、あわてて学校に行ったから忘れ物をした。（ ）あ、転んでしまった。
- (3) 君は何をやってもだめだと思っている。（ ）あ、努力すればきっとできる。
- (4) 私は帰宅することにした。（ ）あ、そろそろ夕食の時間だからだ。
- (5) 明日は雨になりそうだ。（ ）あ、遠足は中止になるだろう。

ア なぜなら イ だから ウ しかし エ そのうえ オ つまり
カ たとえば キ また

問題Ⅱ

次の文章は太宰治だざいおさむの「富嶽百景ふがくひゃくけい」の一場面です。この文章を読んで、後の問いに答えなさい。

- A (一) 冬には、はっきり、よく見える。小さい、真っ白い三角が、地平線にちよこんと出ていて、

それが富士だ。なんのことはない、クリスマス飾り菓子である。しかも左のほうに、肩がかたむいて心細く、船尾せんびのほうからだんだん沈没ちんぼつしかけてゆく軍艦ぐんかんの姿すがたに似ている。三年前の冬、私はある人から、意外な事実を打ち明けられ、途方とほうにくれた。その夜、アパートの一室で、一人で、がぶがぶ酒のんだ。一睡いっすいもせず、酒のんだ。あかつき、小用に立って、アパートの便所べんじょの金網かなあみ張られた四角い窓から、富士が見えた。小さく、真つ白で、左の方にちよつとかたむいて、あゝ富士を忘れない。窓の下のアスファルト路を、魚屋の自転車じきんしゃが疾駆しやくし、おう、けさは、（①）富士がはつきり見えるじゃねえか、めっぼう寒いや、などつぶやき残して、私は、暗い便所の中に立ちつくし、窓の金網かなあみながら、じめじめ泣いて、あんな思ひは、二度とくり返したくない。

B 昭和十三年の初秋、思いをあらたにする覚悟かくごで、私は、かばんひとつさげて旅に出た。

甲州こうしゅう。この山々の特徴とくちゆうは、山々の起伏きふくの線せんの、へんに虚むなしい、なだらかさにある。小島鳥水うすいという人の日本山水論にも、「山のすね者は多く、この土※①せんゆうに仙遊せんゆうがごとし。」とあった。甲州の山々は、あるいは山の、げてもものなのかも知れない。私は、甲府市からバスにゆられて一時間みさかとうげ。御坂峠みさかとうげへたどりつく。

御坂峠かいぼつ、海拔かいぼつ千三百米。この峠とうげの頂上に、天下茶屋という、小さい茶店いふせますじがあつて、井伏鱒二氏いふせますじが初夏のころから、ここの二階に、こもって仕事しごとをしておられる。私は、それを知ってここへ来た。井伏氏のお仕事のじゃまにならないようなら、隣室りんしつでも借りて、私も、しばらくそこで仙遊せんゆうしようと思つていた。

井伏氏は、仕事しごとをしておられた。私は、井伏氏のゆるしをえて、自分その茶屋ちやに落ちつくことになつて、それから、毎日、（②）富士と真正面まへから、向き合つていなければならなくなつた。この峠とうげは、甲府から東

海道に出る鎌倉往還の衝※②に当たっていて、北面富士の代表觀望台であると言われ、ここから見た富士は、むかしから富士三景の一つにかぞえられているのだそうであるが、私は、あまり好かなかった。好かないばかりか、軽蔑けいべつさえした。あまりに、おあつらいむきの富士である。まんなかに富士があつて、その下に河口湖が白く寒々とひろがり、近景の山々がその両袖りょうそでにひっそりうずくまって湖を抱きかかえるようにしている。これは、まるで、風呂屋のペンキ画だ。芝居の書割※③だ。(二二)

C 私が、その峠とうげの茶屋へ来て二、三日たつて、井伏氏の仕事も一段落ついて、ある晴れた午後、私たちは三ツ峠へのぼった。三ツ峠、海拔千七百米。御坂峠より、少し高い。急坂きゅうはんをうようにしてよじ登り、一時間ほどにして三ツ峠頂上に達する。つたかずらをかきわけて、細い山道、はうようにしてよじ登る私の姿は、決してよいものではなかった。井伏氏は、ちゃんと登山服着ておられて、軽快の姿であつたが、私には登山服の持ち合せがなく、ドテラ姿であつた。茶屋のドテラは短く、私の毛ずねは、一尺しやく以上も露出ろしゅつして、しかもそれに茶屋の老翁ろうやから借りたゴム底の地下足袋じかたびをはいたので、われながらむさ苦しく、少し工夫して、角帯かくおびをしめ、茶屋の壁かべにかかっていた古い麦わらぼうしをかぶつてみたのであるが、(③) 変で、井伏氏は、人のなりふりを決して軽べつしない人であるが、このときだけは(④) 少し、気の毒なみそうな顔をして、男は、しかし、身なりなんか気にしないほうがいい、と小声でつぶやいて私をいたわってくれたのを、私は忘れない。とかくして頂上たかについたのであるが、急に濃こいきりが吹き流れて来て、頂上のパノラマ台という、断崖だんがいのふちに立つてみても、いっこうに眺望ちやうぼうがきかない。何も見えない。井伏氏は、濃こい霧きりの底、岩にこしをおろし、ゆっくり

たばこを吸いながら、放屁ほうひなされた。いかにも、つまらなそうであった。パノラマ台には、茶店が三軒げんならんで立っている。そのうちの一軒、老爺らうばと老婆らうばと二人きりで経営しているじみな一軒を選んで、そこで熱い茶を飲んだ。茶店の老婆は気の毒がり、ほんとうにあいにくの霧で、もう少し経ったら霧もはれると思いますが、富士は、ほんのすぐそこに、くつきり見えます、と言ひ、茶店の奥から富士の大きい写真を持ち出し、崖がけの端はしに立ってその写真を両手で高く掲示けいじして、ちようどこの辺に、このとおりに、こんなに大きく、こんなにはつきり、このとおりに見えます、と懸命けんめいに説明するのである。私たちは、番茶をすすりながら、その富士をながめて、笑った。(三)

D その翌々日よくよくじつであったろうか、井伏氏は、御坂峠を引きあげることになって、私も甲府までおともした。甲府で私は、ある娘さんむすめと見合いすることになっていた。井伏氏に連れられて甲府のまちはずれの、その娘さんのお家へお伺うかがいした。井伏氏は、無造作むぞうさな登山服姿である。私は、角帯に、夏はおりを着ていた。娘さんの家のお庭には、ばらがたくさん植えられていた。母君にむかえられて客間に通され、あいさつして、そのうちに娘さんも出て来て、私は、娘さんの顔を見なかった。井伏氏と母君とは、おとな同士の、よもやまの話をして、ふと、井伏氏が、「おや、富士。」とつぶやいて、私の背後※④なげしの長押を見あげた。私も、からだをねじ曲げて、うしろの長押を見上げた。富士山頂大噴火口ふんの鳥かん写真が、かくぶちにいれられて、かけられていた。真つ②白いすいれんの花に似ていた。私は、それを見とどけ、また、ゆっくりからだをねじもどすとき、娘さんを、ちらと見た。きめた。多少の困難があつても、このひとと結婚けっこんしたいものだと思つた。(四)

※①仙遊…俗世界ぞくを離れて遊ぶこと ※②往還の衝…街道の要所 ※③書割…背景 ※④長押…柱と柱の間をつなぐ横材。

第一問 (一) (四) に入る文を、ア～カの中から選びなさい。

ア それは見事な富士で、さすがに名所だと思った。

イ いい富士を見た。霧きりの深いのを、残念にも思わなかった。

ウ あの富士は、ありがたかった。

エ 富士に密かにちかいを立てた。

オ どうにも注文どおりの景色で、私は、はずかしくてならなかった。

カ 東京の、アパートの窓から見る富士は、くるしい。

第二問 次の一文を段落Bの元の場所にもどした時、その直後の五字(句読点をふくむ)を抜き出しなさい。

私は、ひとめ見て、ろうばいし、顔を赤らめた。

第三問 (①) (④) に入る言葉を、次のア～エの中から選びなさい。

ア やけに イ いよいよ ウ いやでも エ さすがに

第四問 —— 線部 ① とありますが、その理由として最も適切なものを次のア～エの中から選びなさい。

ア 富士が沈没^{ちんぼつ}しかけの軍艦^{ぐんかん}に似^にて、印象深く思えたから。

イ 酒をがぶがぶ飲んだせいで、富士が少しかたむいて見えたから。

ウ ある人から意外な事実を打ち明けられ、くるしかったから。

エ 窓の下を魚屋の自転車^{じつてん}が疾駆^{しやく}し、その健全さがうらやましかったから。

第五問 —— 線部 ② は何か、十五字以内で抜き出しなさい。

第六問 段落 A～D のそれぞれの場面で、「私」は富士に対してどんな気持ちをいだいたのか。「私」の気持ちに近いものを、次のア～キの中から選びなさい。

ア 楽しさ イ ありふれていて、つまらない ウ むだな苦勞 エ 感謝

オ 悲しみ カ 厳しさ キ 優しさ

問題Ⅲ 次の問いに答えなさい。

第一問 次の一文の要点を三十五字以内（句読点をふくむ）で書きなさい。

日本の年間雨量は一七〇〇ミリ、豊かな水のある国です。そういうところで、昔からふんだんに水を使う習慣を持った日本人は、水のありがたさの感覚がマヒしています。

第二問 次の一文の要点を二十字以内（句読点をふくむ）で書きなさい。

人が生きていく道は、町や野や、山や川をつらぬいて走る一本の道に似ていて、決して真っ直ぐだとは限りません。

第三問 次の語句をならびかえて、一文を作りなさい。

- | | | | | | | | | | |
|-----|----|-----|----|----|------|----|---|----|---|
| (1) | ない | 勉強は | 式の | 立た | つめこみ | 役に | 。 | | |
| (2) | ある | には、 | こそ | 勉強 | 集中力 | で | が | 大事 | 。 |

第四問 次の語句をならびかえて文を作ったとき、不要な語句がそれぞれ二つあります。それぞれ答えなさい。

- (1) できる 言葉に 今の 気持ちは できない また 私の とても 。
- (2) に すぎ ダイエット中 の 食べ た なの で 。

第五問 ①が文章の要点となるように、①と②を合わせて一文を作りなさい。

- ① 北海道は春でもまだ寒い。 ② 日本列島の北方に北海道がある。

問題IV 次の文章は出口汪でぐちひろしの「使える論理力」の一部分です。文章を読んで、後の問いに答えなさい。

A つまり、誰もだれが同じ風景を、同じようには見ていないのです。

映画やテレビドラマの主役に対して、最初はそれほど魅力的みりよくとは思えない役者でも、場面を重ねるに従ってだんだん魅力的に思えてくるものです。これも同じ原理が働いています。たとえば、不細工なコメディアンがバラエティ番組にしばしば登場するうちに人気者になるのも同じことでしょう。

B たとえば、浜辺での夕焼けでも、恋人と二人で見るのと、失恋して一人で見るのでは、ずいぶん異なって見えることでしょう。それだけではありません。

C あなたがある人に初対面で会ったとしましょう。おそらく最初はぎこちなく接していたのが、だんだんリラックスするにつれ、相手に対してほんの少し好意を抱くようになるでしょう。

そして、再びその人と会った時、当然、初対面の時とは印象が違って見えるはず。そうやって、過去の風景に現在の風景を重ねて、繰り返し今の風景を作っているのです。

D いったい「見る」とはどういうことでしょうか。私たちは網膜に映った映像を知覚しています。知覚するということとは、「目で見て、それを脳で認識している」わけです。脳を経過させるということは、私たちはみな、同じ風景を同じようには見ていないということです。

E だから、好きな人はより一層好きになるかもしれないし、嫌だと思った相手とは、嫌な思いをした現在の風景に重ねて今の相手を見るから、ますます悪印象を抱いたりするわけです。

第一問 文中に間違った熟語があります。その段落のアルファベットを答えて正しい漢字に直しなさい。

第二問 A、B、C、D、E を正しい順番にならびかえなさい。ただし、D が最初にくるものとする。

第三問 **問題提起** (作者が自分で問題を持ち出すこと) の段落はどれか、アルファベットで答えなさい。

第四問 次の一文を元の場所に戻すとしたらどの段落がいいか、アルファベットで答えなさい。

なぜなら、あなたは最初に会った時の相手の印象に重ね合わせるように、二回目はその人の容姿を見たはずだからです。

第五問 ——線部とありますが、その理由が述べられている段落をアルファベットで答えなさい。

第六問 問題文の内容に一致するものを次のア～オの中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 人は同じ風景を同じようには見ていない。
- イ 人は何度も会うたびに親しみを感じる。
- ウ 不細工なコメディアンでもテレビに出れば人気者になる。
- エ 人は過去の記憶きおくの風景に重ねて、今の風景を見ている。
- オ 人は過去の風景と現在の風景を取り違ちがえてみることもある。

問題V

捨てられている犬にえさをあげることに賛成か、反対か。考えられる賛成と反対の理由を二つずつ、それぞれ三十字以上、四十字以内（句読点をふくむ）で答えなさい。ただし次の語句を一つの理由に對して、必ず一つ以上使うこと。また、使った語句のとなりには線を引くこと。

権利 無責任 命 ふん 同情 人間 病気 おそう

